

石油燃焼機器の過去の事故一覧 ④石油温水機器（石油給湯機、ふろがま付石油給湯機、油だき温ボイラ、石油ふろがま）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
1	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH314S	④	木造家屋を全焼。 人への被害なし。	不明	原因は調査中。			○	1989年9月～2006年12月	
2	㈱ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	7年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
3	カラスターダート㈱	2006	石油給湯機	FD-41	④	戸建住宅に隣接した納屋に設置した機器の周囲の 可燃物が焼損した火災。	約10年	屋外型の機器を屋内に設置したため機器前面から 出る排気により近くに置いてあった可燃物（毛布 等）が発火し延焼したと思われる。		○		1980年7月～2007年1月	
4	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH40KE	④	給湯機本体焼損	8.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発 火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
5	㈱長府製作所	2006	石油ふろがま	SB-7C	④	家屋全焼	24年	現品返却なく所在不明で調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	
6	長州産業㈱	2006	石油給湯機	DX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	9年	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
7	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH40K	④	壁面の焦げ	10年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発 火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
8	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH32K	④	天井・壁の焦げ	9年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発 火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
9	東陶機器㈱	2006	ふろがま付石油給湯機	RPE32KGSS	④	給湯機本体焼損	7.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発 火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
10	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH32KE	④	給湯機設置場所及び上階の一部を焼損	6.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発 火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
11	㈱ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302SA	④	器具内部焼損	8年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
12	㈱長府製作所	2006	石油ふろがま	CK-8	④	壁91㎡焼損	20年	空焚きにて熱交が焼損し、排気が漏れたものと推 定		○		～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
13	(株)ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損	8年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
14	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	2006	油だき温水ボイラ	MBX-307S2	④	器具内部焼損	24年	コントローラ付近が焼損			○	1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
15	長州産業(株)	2006	石油給湯機	PDX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	8年	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
16	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	HO-350A	④	器具内部焼損	9年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
17	長州産業(株)	2006	石油給湯機	DX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	8年8ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
18	長州産業(株)	2006	石油給湯機	PDX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	7年11ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
19	(株)ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302SAY	④	器具内部焼損	8年07ヶ月	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
20	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-403Y	④	器具内部焼損	7年6ヶ月	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
21	松下電器産業(株)	2006	油だき温水ボイラ	OW-313G	④	本体焼損。波板焼損	1990～2006	電源コードに溶融痕あるが原因不明			○	1987年1月～2006年12月	
22	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-302YS	④	器具内部焼損	7年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
23	(株)ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302AY	④	器具内部焼損	7年04ヶ月	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
24	(株)ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTQ-405YS	④	器具内部焼損	5年	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
25	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	7年0ヶ月	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
26	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	7年	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
27	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-405YS	④	器具内部焼損	7年07ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
28	三洋電機(株)	2006	石油給湯機	HB-GK31C	④	全焼(300㎡)、両隣の一部も延焼(200㎡)、給湯機の延長排気管の周囲木材より出火する。	約20年	消防の調査に立会い、機器には問題がない、旨の見解。				1986年1月～2006年12月	当該機が出火元ではない
29	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OB-301Yb	④	器具内部焼損	22年	送油ホースの経年劣化による亀裂	○			1982年11月～2006年12月	
30	東陶機器(株)	2006	ふろがま付石油給湯機	RPE43KDSN	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	2年5ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
31	(株)長府製作所	2006	石油ふろがま	CK-7S	④	木造2階建て201㎡全焼	17年	機器外部からの火により延焼したものと推定			○	～2006年12月	
32	東陶機器(株)	2006	ふろがま付石油給湯機	RPE32KASS	④	給湯機本体焼損	5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
33	(株)ノーリツ	2006	ふろがま付石油給湯機	OTX-3100F	④	器具、床一部焼損	16年	器具内にすす取剤投入			○	1982年11月～2006年12月	
34	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OX-310FF	④	器具内部焼損	15年	缶体漏水によるショート	○			1982年11月～2006年12月	
35	(株)ノーリツ	2006	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	8年2ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
36	松下電器産業(株)	2006	ふろがま付石油給湯機	OW-33QB	④	屋外小屋焼損	1992～2006	誤使用(屋外型商品を器具近接の小屋囲で使用) NITE合同解析			○	1987年1月～2006年12月	
37	東陶機器(株)	2006	石油給湯機	RPH32K	④	給湯機本体焼損	8年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
38	㈱トヨタミ	2006	石油ふるがま	AF-205	④	消防署から、煙突の継ぎ目からの出火と思われるが、現品の仕様の照会を受ける。事故に関する詳細情報は得られず。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
39	㈱長府製作所	2006	石油給湯機	IB-314	④	住宅約24m2焼損	不明	情報があつた時点で現品の所在が不明で調査不能のため原因不明 (ガスボンベが雪で倒れて漏れたガスにボイラの点火で引火したと推定)			○	～2006年12月	
40	長府工業㈱	2006	油だき温水ボイラ	HU-N2000	③	屋外に設置した当該機の排気ガスを住宅の給排気システムが吸気したため宅内に取込まれ夫婦が軽い一酸化炭素中毒と診断される。	約2ヶ月	ボイラーの煙突排気口と住宅給排気システムとの設置位置不備		○		～2007年1月	
41	東陶機器㈱	2006	石油給湯機	RPH32KE	④	給湯機本体焼損	8年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
42	長州産業㈱	2006	ふろがま付石油給湯機	PDF-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	7年9ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
43	長州産業㈱	2006	石油給湯機	DX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	8年	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
44	長州産業㈱	2006	石油給湯機	PDX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	9年5ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
45	東陶機器㈱	2005	石油給湯機	RPH40KE	④	給湯機本体焼損	8年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
46	㈱長府製作所	2005	油だき温水ボイラ	HG-4000S	④	住宅全焼	不明	情報があつた時点で現品の所在が不明で調査不能のため原因不明 (焼却兼用ボイラで焚き口蓋が壊れたまま使用し、火の粉が近くに放置した新聞紙に着火したと推定)			○	～2006年12月	
47	長州産業㈱	2005	石油給湯機	DX-403D	④	機器と壁の一部を焼損。ガラス一枚破損。人的被害なし	8年1ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
48	㈱長府製作所	2005	石油ふろがま	JPK-N	④	家屋・物置全焼	17年9ヶ月	現品調査ができなく詳細調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	
49	東陶機器㈱	2005	石油給湯機	RPH43KS	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	2年10ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
50	長州産業㈱	2005	石油給湯機	PDX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	9年1ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
51	東陶機器㈱	2005	ふろがま付石油給湯機	RPE32KAF	④	給湯機本体焼損	9年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
52	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302SA	④	器具内部焼損	7年01ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
53	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損	7年04ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
54	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTX-305AYSL	②	高温のふろに入りやけど(25日入院)	2年	器具の給水バルブを締めて使用したため高温水(70度)がわずかに供給されエラーで停止しそれを繰り返したため		○		1982年11月～2006年12月	
55	東陶機器(株)	2005	石油給湯機	RPH32KF	④	給湯機本体焼損	9.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
56	東陶機器(株)	2005	ふろがま付石油給湯機	RPE32KE	④	天井・壁面の焦げ	6年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
57	長州産業(株)	2005	石油給湯機	PDX-403D	④	機器と壁の一部を焼損。人的被害なし	8年6ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
58	東陶機器(株)	2005	ふろがま付石油給湯機	RPE32KA	④	給湯機本体焼損	6.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
59	長州産業(株)	2005	石油給湯機	DX-403D	④	機器のみ焼損で人的被害及び拡大被害なし	8年4ヶ月	油元弁のシール用Oリングの劣化による油漏れ				2005年1月～2007年1月	リコール製品
60	(株)ノーリツ	2005	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	6年06ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
61	(株)日立ハウステック	2005	石油給湯機	HO-3100H	④	石油給湯機付近より出火、木造2階建住宅約250平方メートルと隣家約200平方メートルを全焼した	約15年	消防の調査では給湯機が原因ではなく、排気筒の施工上の問題と推定している。		○		1986年4月～2006年12月	
62	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損	7年01ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
63	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損	7年01ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
64	(株)ノーリツ	2005	石油給湯機	HO-350Z	④	器具内部焼損	不明	0リンク劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
65	(株)長府製作所	2005	油だき温水ボイラ	HG35S	④	全焼。3棟類焼。	8年	正規のバーナーを使用しなかったことにより、バーナー口に隙間が生じて火が漏れたと推定		○		～2006年12月	
66	(株)長府製作所	2005	石油ふろがま	CK-5	④	2階半焼	23年以上	経年劣化によりビッド割れしたガスホースから漏れた灯油が炉内から漏れた排気ガスにより引火したと推定	-	-	-	～2006年12月	
67	(株)長府製作所	2005	石油ふろがま	CHS-2	④	住宅全焼	不明	情報があつた時点ではすでに現品が処分されており調査不能で原因不明(焼却兼用ふろがまで焚き口の隙間から火の粉がこぼれ近くにしみ込んでいた近くの灯油に引火したと推定)			○	～2006年12月	
68	(株)ノーリツ	2005	油だき温水ボイラ	OH-1700DY	④	器具内部焼損	2年	オイル制御不良で不燃し付着したオイルに引火	○			1982年11月～2006年12月	
69	(株)ノーリツ	2005	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損	6年08ヶ月	リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
70	(株)ノーリツ	2005	石油給湯機	OQB-3000Y	④	器具内部焼損	10年	経年劣化でネジ部から漏れに引火	○			1982年11月～2006年12月	
71	(株)長府製作所	2005	石油ふろがま	JPK-N3	④	壁10m2焼損	不明	情報があつた時点で現品の所在が不明で調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	
72	東陶機器(株)	2004	石油給湯機	RPH40K	④	給湯機本体焼損	4年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
73	(株)ノーリツ	2004	石油給湯機	HO-350Z	④	器具内部焼損	6年6ヶ月	Oリング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品
74	(株)ノーリツ	2004	石油給湯機	OQB-3000Y	④	器具内部焼損	15年				○	1982年11月～2006年12月	
75	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	2004	油だき温水ボイラ	MBX-4500W	④	器具内部焼損		送油ガスホース劣化	○			1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
76	東陶機器(株)	2004	石油給湯機	RPH40K	④	給湯機本体焼損	5.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
77	株長府製作所	2004	石油ふろがま	BM-73K	④	勝手口1.4m ² 、浴室側壁1m ² 焼損	不明	情報があつた時点では既に現品が処分されており、調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
78	(株)長府製作所	2004	石油ふろがま	BM-71	④	住宅の一部8m2焼損	不明	情報があつた時点では既に使用者によって処分されていたため調査不能で原因不明			○	～2006年12月	
79	(株)長府製作所	2004	石油ふろがま	BM-71	④	自宅 木造一部2階述べ230平方メートルを全焼し、家族は無事。	10年以前	バーナーをバーナー固定金具で固定せず、差し込んだだけだったため、火が漏れたと推定			○	～2006年12月	
80	(株)長府製作所	2004	石油ふろがま	BM-7	④	住宅半焼	不明	情報があつた時点では現品の所在が不明であり、調査不能のため原因不明 (循環パイプのバンド部より水漏れして空焚きとなったと推定)			○	～2006年12月	
81	東陶機器(株)	2004	石油給湯機	RPH32KE	④	給湯機設置場所の換気扇の溶損	5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
82	(株)ノーリツ	2004	油だき温水ボイラ	OH-1200DY	④	器具と前の立ち木一部こげ	3年				○	1982年11月～2006年12月	
83	(株)長府製作所	2003	石油ふろがま	JPS-T3	④	1階風呂場の天井約5m2焼損	不明	現品の返却がなく情報があつた時点で所在も不明であり、調査不能のため原因不明			○	～2006年12月	
84	東陶機器(株)	2003	石油給湯機	RPH32KE	④	給湯機本体焼損	6年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
85	東陶機器(株)	2003	石油給湯機	RPH40KE	④	給湯機本体焼損	7年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
86	(株)長府製作所	2003	石油ふろがま	型式不明	④	住宅全焼	不明	焼却兼用ふろがまの煙突の熱が、天井貫通部の木材に引火したものと推定 (メガネ板は使用者が自作したブリキ板を穴あけしたものだ)			○	～2006年12月	
87	(株)ノーリツ	2003	石油給湯機	OQB-3000Y	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
88	(株)コロナ	2003	石油給湯機	UIB-310TX	④	木造2階建て住宅から出火し、約150平方メートルを全焼した。	不明	消防の調査では、給湯機の下部から火の手が上がっているのを家人が目撃していることから、給湯器付近から出火したものとみているが、焼損が著しく原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
89	(株)長府製作所	2003	石油給湯機	IB-34F	④	1階風呂場など約30m2焼損	不明	現品の返却がなく情報があつた時点では所在も不明で調査不能のため原因不明 (めがね石が煙突の熱で炭化し、当日の過熱で低温発火したものと推定)			○	～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
90	サンデン(株)	2002	石油給湯機	HB-402Q	④	本体焼損と火災事故	14年	繰返しの外部応力によるストレーナーネジ部の緩みによる灯油漏れ、周囲の埃等に灯油が染込み引火したものと報告。消防署に受理された。		○		1980年1月～2007年1月	製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考	
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中			
91	(株)ノーリツ	2002	石油給湯機	HO-350A	④	器具内部焼損	4年7ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品	
92	三洋電機(株)	2002	石油給湯機	HB-B31E	④	全焼火災	約9年	警察・消防とも原因不明の見解。			○	1986年1月～2006年12月		
93	東陶機器(株)	2002	ふろがま付石油給湯機	RPE40KA (TP- BS402AZR-D)	④	給湯機本体焼損	5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品	
94	(株)ノーリツ	2002	ふろがま付石油給湯機	OTQ-302Y	④	器具内部焼損 網戸一部焼き	5年	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品	
95	東陶機器(株)	2002	ふろがま付石油給湯機	RPE32KSS	④	簡易屋根の支柱の焦げ	5.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品	
96	東陶機器(株)	2002	ふろがま付石油給湯機	RPE32KE	④	給湯機本体焼損	5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品	
97	(株)ノーリツ	2002	石油給湯機	OQB-302Y	④	器具内部焼損	3年8ヶ月	0リング劣化により油漏れ、引火	○			2002年8月～2007年1月	リコール製品	
98	三洋電機(株)	2002	ふろがま付石油給湯機	HBB-A31BZ	④	半焼火災	約4年4ヶ月	消防より、出火元は“行”ではない、と断定した旨の連絡あり。				1986年1月～2006年12月	当該機が原因ではない	
99	(株)ノーリツ	2002	石油給湯機	OX-3000YS	④	器具、軒焼損	16年				○	1982年11月～2006年12月		
100	サンポット(株)	2002	ふろがま付石油給湯機	HME-Q402FF	④	機器設置の壁焼損	4年2ヶ月	熱交スス詰り				○	1969年4月～2006年12月	
101	(株)日立ハウステック	2002	ふろがま付石油給湯機	KZO-3100PD	④	台所で使用中、ブレーカが落ちたので外へでると、石油給湯機から煙と炎が出ていた(器具焼損)	約10年	電磁ポンプとオイルレインの接続部部に緩みがあった。ここから灯油が洩れ引火したと思われる。経年で緩む部位ではなく緩みの原因は不明。				○	1986年4月～2006年12月	
102	(株)長府製作所	2002	石油給湯機	IB-34	④	ボイラー本体焼損、ボイラ室隣接の家屋外壁の一部を焦がした	不明	調査したが原因不明				○	～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
103	(株)ノーリツ	2002	石油給湯機	OQB-3000Y	④	器具内部焼損	13年	配管接続部のOリングからオイル漏れ引火	○			1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
104	東陶機器㈱	2002	石油給湯機	RPH40KE	④	給湯機本体焼損	6.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
105	東陶機器㈱	2002	ふろがま付石油給湯機	RPW310R	④	器具焼損及び器具側の窓・壁の一部を焼損。人への被害なし。	17年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
106	東陶機器㈱	2002	ふろがま付石油給湯機	RPE32ASN	④	器具内一部焼損。人への被害なし。	10年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
107	㈱長府製作所	2001	石油ふろがま	H2S-2	④	住宅約90平方メートルと隣接する作業場約90平方メートルを全焼	不明	焼却兼用ふろがまで薪の火があふれて、釜の外の可燃物に着火したものと推定		○		～2006年12月	
108	㈱ノーリツ	2001	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	18年	未燃灯油に引火	○			1982年11月～2006年12月	
109	東陶機器㈱	2001	ふろがま付石油給湯機	RPW310R	④	器具内一部焼損。人への被害なし。	7年	送油ゴムホースのクラックにより、漏れた灯油に引火と推定。				1989年9月～2006年12月	経年劣化によるもの。
110	㈱長府製作所	2001	石油ふろがま	CK-5	④	1階風呂場の天井と外壁部分約4㎡を焼いた。	20数年	業者が修理不能で使用しないよう話したが、不調のまま使用したことで煤付着し、排気温度上昇と推定		○		～2006年12月	
111	東陶機器㈱	2001	ふろがま付石油給湯機	RPE31VF	④	器具が設置されている地下室内を一部焼損。人への被害なし。	9年4ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
112	㈱富士通ゼネラル	2001	油だき温水ボイラ	KB-64FS	④	二階建て一棟全焼	不明	電源コード破損によりコード途中からスパーク		○		1984年5月～2007年1月	
113	カラスタード㈱	2000	石油ふろがま	FT-3	④	ふろがまに着火し、約30分後にかまから出火、住宅と隣家を全焼した。	不明	消防の調査では、着火時には灯油を使用し、ある程度の火力になってからはまきを使用していたが、かまの奥行きが40～50cmであるのに、それ以上の長さの木材を挿入し焚き口ふたを開けたまま使用していたため、炎が木材を伝ってかまの挿入口より噴き出し、周囲の可燃物に燃え移り火災に至ったものとみている。		○		1980年7月～2007年1月	
114	㈱ノーリツ	2000	石油給湯機	OX-3000YS	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
115	㈱コロナ	2000	ふろがま付石油給湯機	UKB-3200TX	④	新聞社の社宅ボイラー室で、ボイラーが異常燃焼し、ボイラー室の一部を焼いた。	約11年	消防の調査では、燃料の送油経路に使用している、ゴムのOリングの経年劣化による油漏れが原因と考えられるが、器具の焼損が激しく原因は特定できなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
116	(株)ノーリツ	2000	石油給湯機	OX-3000Y	④	器具内部焼損		電源コード 溶融痕あるが不明			○	1982年11月～2006年12月	
117	東陶機器(株)	2000	ふろがま付石油給湯機	RPE32KASS	④	給湯機本体焼損	4.5年	油電磁弁のOリングが収縮・油漏れし、引火・発火	○			1995年9月～2006年12月	リコール製品
118	(株)ノーリツ	2000	石油ふろがま	OR-6C	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
119	(株)ノーリツ	2000	石油給湯機	OQB-3000YS	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
120	(株)コロナ	2000	石油ふろがま	BS-2000GSD	④	住宅から出火し、木造一部2階建て約110平方メートルのうち、ふろ場や台所など約66平方メートルが焼けた。	不明	警察及び消防の調査では、石油ふろがまのバーナー部に煤が多量に付着していたことが確認でき、その周辺の燃え方が著しく、火元となるものが石油ふろがましかないため、石油ふろがまの異常燃焼により出火し、周辺の可燃物に燃え移った可能性が高いとみているが、焼損が著しいため、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
121	(株)ノーリツ	2000	石油給湯機	OQB-3000YS	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
122	(株)ノーリツ 【(株)アールビー】	2000	油だき温水ボイラ	MBX-307S2	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
123	サンポット(株)	2000	油だき温水ボイラ	HUR-322WMRF	④	機器のみ焼損	9年	不明			○	1969年4月～2006年12月	
124	三菱電機(株)	2000	油だき温水ボイラ	VKH-100KS-K3	④	機器内部の焼損であったが、消防署が出動して消火活動を実施。住宅の拡大被害なし	1994～2000	定油面器の異物詰まりによる油漏れと、修理不十分によりドラフツが發生し、発火し引火と推定(当社見解、消防署へ報告)			製品起因でない	1975年4月～2006年12月	
125	(株)ノーリツ	1999	ふろがま付石油給湯機	ORM-2701Y	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
126	(株)ノーリツ	1999	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損	15年				○	1982年11月～2006年12月	
127	(株)ノーリツ	1999	石油給湯機	OQB-3000F	④	器具内部焼損	17年				○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
128	三洋電機㈱	1999	石油給湯機	HB-S251DG-P2	④	半焼火災	約17年	消防の調査結果は原因不明、とのこと。			○	1986年1月～2006年12月	
129	㈱ノーリツ [㈱アールビー]	1999	油だき温水ボイラ	MBX-307S2	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	販売;㈱ノーリツ
130	㈱ノーリツ	1999	ふろがま付石油給湯機	OTQ-3000AY	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
131	日本楽器製造㈱ 「YAMAHA」	1999	油だき温水ボイラ	RG-278	④	家屋全焼し、製品も焼損	22年	原因不明（調査依頼が無く、現品確認出来ず）			○	1986年1月～2006年12月	
132	東陶機器㈱	1999	石油給湯機	RPH40VSN	④	器具焼損及び器具側の壁の一部を煤で汚す。人への被害なし。	3年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
133	㈱長府製作所	1999	石油ふろがま	BM-71	④	浴室の壁2㎡と屋根と屋根裏を20㎡焼いた。	15年	空焚き			○	～2006年12月	
134	㈱コロナ	1998	石油ふろがま	BS-2000GT	④	石油ふろがま付近から出火し、木造一部2階建て住宅約150平方メートルを全焼し、隣接する物置小屋を半焼した。	約11年2月	消防の調査では、石油ふろがま付近から出火したものとみているが、事故品の焼損が著しく、原因の特定はできなかった。			原因不明 処理済	1995年4月～2006年12月	
135	㈱コロナ	1998	石油給湯機	UIB-3100X	④	木造一部2階建て住宅の石油給湯器付近から出火し、住宅約105平方メートルのうち50平方メートルを焼いた。	不明	消防の調査では、ボイラー室天井表面スレート板（不燃材）内側のたる木の焼損が著しかったことから、石油給湯器及び排気筒の断熱施工が不十分だったため、長年の使用によりボイラー室天井のたる木が炭化し、低温着火したものとみている。			業者の施工不良	1995年4月～2006年12月	原因は業者の施工不良
136	㈱長府製作所	1998	石油給湯機	IB-28SD	①	死亡	不明	現品返却なく調査不能で原因不明（機器との因果関係も不明）			○	～2006年12月	
137	㈱ノーリツ	1998	ふろがま付石油給湯機	ORM-240	④	器具内部焼損	12年	経年劣化によるベッセルからの炎あふれ	○			1982年11月～2006年12月	
138	㈱コロナ	1998	石油ふろがま	不明	④	風呂場から出火し、木造平屋建て住宅約34平方メートルを全焼した。	約10年	警察の調査では、しん上下式石油ふろがまに火を点けた際、しんを戻すのを忘れたために火が外にあふれ出て、それに気がついた家人が毛布をかぶせて消火を試みたが、逆に毛布に燃え移り、延焼したものとみている。			○	1995年4月～2006年12月	
139	㈱長府製作所	1997	石油ふろがま	BM-71K	④	店舗兼住宅全焼	12年	空焚き防止器が以前から壊れていてそのまま使用していて空焚きになり火災に至ったと推定			○	～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品 目	型式機種	被害 区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備 考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
140	株長府製作所	1997	ふろがま付石油給湯機	KIB-30	④	ボイラ燃えていて変形。ボイラ室の壁、天井と隣の部屋一部焼損。	13年3ヶ月	調査記録なく原因不明			○	～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考		
								内容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中	
141	(株)コロナ	1997	石油ふろがま	BS-1500P2	①	2階建て住宅の1階浴室で老夫婦がCO中毒死した。	不明	警察の調査では、被害者は15年ほど前から同市内のマンションに住んでおり、年に1回ほど元の持ち家の掃除や庭の手入れのため、持ち家に泊まるのが習慣となっており、宿泊した際にふろがまを使用したところ、ふろがまから家の外にのびた煙突の中に鳥の巣の様なものが詰まっていたため、排気ガスが浴室内に漏れ不完全燃焼となり浴室内のCOガス濃度が高くなったことから、中毒死したものとみている。(当該機種は浴室内設置を禁止している)		○		1995年4月～2006年12月		
142	(株)長府製作所	1997	石油ふろがま	JPK-N	④	住宅全焼	15年	ふろがま本体は焦げても無く、空焚きした形跡も無いので機器が原因ではない	-	-	-	～2006年12月		
143	東陶機器(株)	1997	ふろがま付石油給湯機	RPW310L	④	器具焼損及び器具側の壁の一部を焼損。人への被害なし。	8年6ヶ月	灯油へのドレン混入により熱交換器が煤詰まりし、排気口から炎があふれと推定。		○		1989年9月～2006年12月		
144	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1997	油だき温水ボイラ	MBX-30S	④	器具内部焼損	1年未満	AS不備				1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ	
145	(株)コロナ	1997	ふろがま付石油給湯機	UKB-3100TX	④	灯油式の給湯用ボイラーが異常燃焼し、ボイラー内部を焼いた。	不明	警察の調査では、事故品は事故前日に修理業者が給油弁の修理を行っており、その際、内部配管の締め付けが緩かったため灯油が漏れ、異常燃焼したものとみている。	業者の修理不良			1995年4月～2006年12月	原因は業者の修理不良	
146	(株)ノーリツ	1997	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具、周囲焼け	13年				○	1982年11月～2006年12月		
147	(株)日立ハウステック	1997	石油給湯機	HO-3100DS	④	石油給湯機から出火、外壁がススで汚損した(器具焼損)	約5年	オイルストレーナのバフン部により油漏れし燃焼時に引火した。緩みの原因はストレーン清掃等の外的要因も考えられるが特定できず。				○	1986年4月～2006年12月	
148	(株)ノーリツ	1997	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月		
149	サンポット(株)	1997	石油ふろがま	FB-G5	④	機器・壁	3年	空焚き		○		1969年4月～2006年12月		
150	(株)長府製作所	1996	石油ふろがま	型式不明	④	ふろがまから出火し、住宅を全焼した。	15年	情報があつた時点ではすでに現品が処分されており、調査不能のため原因不明			○	～2006年12月		
151	(株)ノーリツ	1996	ふろがま付石油給湯機	ORM-300Y	④	器具、壁一部焼損					○	1982年11月～2006年12月		

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
152	その他	1996	石油給湯機	TBS-3101F (製造元:田村金 属製作所)	③	ログハウスの浴室でCO中毒により小学生4名が倒れ、病院へ運ばれた(軽症)。	約3年	脱衣室内の給湯機の排気筒が、つなぎ目で外れ、排気ガスが室内に漏れた。排気筒が外れた原因の特定はできなかった。 (なお、N I T E : 製品安全・事故情報では、強風の影響により煙突がつなぎ目でずれたものとの消防見解が示されている。)			○	1988年11月～2006年12月	INAXより情報提供 「原因不明または調査中」としたが、NITEの情報では強風が原因とされている。

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
153	(株)ノーリツ	1996	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	12年				○	1982年11月～2006年12月	
154	(株)ノーリツ	1996	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損	11年				○	1982年11月～2006年12月	
155	(株)ノーリツ	1996	ふろがま付石油給湯機	ORM-300Y	④	器具、雨どい焼損					○	1982年11月～2006年12月	
156	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1996	油だき温水ボイラ	MBX-30S	④	器具内部焼損	15年	ゴムホース劣化	○			1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
157	(株)ノーリツ	1996	石油給湯機	OB-301Y	④	器具内部焼損	13年				○	1982年11月～2006年12月	
158	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPE31VS	④	器具焼損及び器具側の窓の一部を焼損。 人への被害なし。	4年6ヶ月	灯油へのドレン混入により熱交換器が煤詰まりし、排気口から炎があふれと推定。			○	1989年9月～2006年12月	
159	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPE314EYN	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	4年4ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
160	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPW310EUS	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	13年	送油ゴムホースのクラックにより、漏れた灯油に引火と推定。				1989年9月～2006年12月	経年劣化によるもの。
161	(株)INAX	1996	石油給湯機	FB-3117C	④	給湯機から出火。木造2階建て住宅の壁の一部を延焼。けが人なし。	約13年	機器修理中、現場を離れた際に、誤って機器が運転された。制御が正常に作動せず、異常過熱したものと推定している。			○	1988年11月～2006年12月	
162	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPW311L	④	器具焼損及び器具側の窓の一部を焼損。 人への被害なし。	10年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
163	(株)長府製作所	1996	石油ふろがま	CH2S	④	点火が悪くなったが、そのまま入、切を繰り返していたら中に溜まった油に点火して爆発着火し、煙突が飛んで野地板を焦がしたらしい。	約6年	点火不良による油だまりと推定	○			～2006年12月	
164	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPW310EUS	④	器具焼損及び器具周囲を煤で汚す。 人への被害なし。	7年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
165	東陶機器㈱	1996	ふろがま付石油給湯機	RPE40AS	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	1年3ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
166	三洋電機(株)	1996	油だき温水ボイラ	HBU-AK13AZ	④	外壁の給排気トップ周りに出火。	約3ヵ月	給気閉塞による過熱でバーナ部品外れを起こし、更に暖房負荷が小さいことによる頻繁な運転・停止の相乗効果で排気筒にススが詰まり、排気温度が異常に上昇したものと推定。			○	1986年1月～2006年12月	
167	(株)ノーリツ	1996	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
168	(株)ノーリツ	1996	石油給湯機	OQB-3000F	④	器具、フロア焼損	4年				○	1982年11月～2006年12月	
169	松下電器産業(株)	1996	油だき温水ボイラ	SI-60K	④	排気筒からの火の粉(煤)で土間に溜まっていた油に引火	1983～1996	誤使用(手入れ不足) 変質灯油による不完全燃焼の煤付着(推定)			○	1987年1月～2006年12月	
170	(株)ノーリツ	1996	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具、壁一部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
171	(株)ノーリツ	1996	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具内部焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
172	(株)ノーリツ	1996	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損	13年				○	1982年11月～2006年12月	
173	東陶機器(株)	1996	ふろがま付石油給湯機	RPE40VF	④	器具焼損及び器具側の壁の一部を煤で汚す。 人への被害なし。	1年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
174	サンポット(株)	1995	油だき温水ボイラ	HUR-322WFRF	④	機器・床	4年	点検不良(点火プラグ取り付け不良で緩み発生)				1969年4月～2006年12月	
175	(株)ノーリツ	1995	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具内部焼損	12.4年	オイルホスびび、煙管づまり			○	1982年11月～2006年12月	
176	(株)ノーリツ	1995	石油ふろがま	OC-240	④	器具、ボイラ室焼損	14年				○	1982年11月～2006年12月	
177	(株)ノーリツ	1995	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具、壁一部焼損					○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
178	日本楽器製造㈱ 「YAMAHA」	1995	石油給湯機	MG-302	④	製品焼損	15年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
179	(株)長府製作所	1995	石油給湯機	IB-3SM	④	ボイラーと自転車置き場のビニール屋根約6㎡を焼いた。	18年	油ホース接続部の袋ナットの緩みによる油漏れに、着火圧逃がし口を石で塞いだことによる逆火で引火したと推定		○		～2006年12月	
180	(株)ノーリツ	1995	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具、壁一部焼損		修理済				1982年11月～2006年12月	
181	(株)ノーリツ	1995	ふろがま付石油給湯機	ORM-2700F	④	器具、UB焼損		空焚き		○		1982年11月～2006年12月	
182	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1995	油だき温水ボイラ	R-600A	④	器具、ヒートレックス焼損		ユーザの管理責任		○		1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
183	(株)ノーリツ	1995	ふろがま付石油給湯機	ORM-240	④	器具、UB、家屋一部焼損	12年				○	1982年11月～2006年12月	
184	(株)ノーリツ	1995	石油ふろがま	OT-2701Y	④	家屋全焼		情報のみで詳細不明			○	1982年11月～2006年12月	
185	(株)ノーリツ	1994	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具内部焼損	10年				○	1982年11月～2006年12月	
186	東陶機器(株)	1994	ふろがま付石油給湯機	RPW310R	④	器具焼損及び器具側の壁の一部の焼損。 人への被害なし。	10年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
187	(株)ノーリツ	1994	ふろがま付石油給湯機	OTX-3101YV	②	高温のふろに入りやけど	0.5年	リモコン調を最高温度で湯張りしたため		○		1982年11月～2006年12月	
188	サンデン(株)	1994	石油給湯機	HWS-K301QT	④	本体焼損と火災事故	5年	外部応力による送油部品の割れで灯油が漏れ異常燃焼し熱交が詰まり漏れた灯油に引火した。消防署に受理された。		○		1980年1月～2007年1月	製品の使用期間は該当品製造年から事故発生日までの期間を記載
189	松下電器産業(株)	1994	石油給湯機	OW-310GQJ	①	家屋全焼 (1名死亡)	1981～1994	施工不良(めがね石なし)		○		1987年1月～2006年12月	
190	東陶機器(株)	1994	ふろがま付石油給湯機	RPW310L	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	9年	送油ゴムホースのクラックにより、漏れた灯油に引火と推定。				1989年9月～2006年12月	経年劣化によるもの。

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
191	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1994	油だき温水ボイラ	MBX-307S	④	家屋全焼	12年				○	1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
192	三洋電機(株)	1993	油だき温水ボイラ	HBU-AK7A1	④	半焼火災	約1年7ヶ月	現物は調査のため、警察が持ち帰り。調査結果は不明。			○	1986年1月～2006年12月	
193	(株)ノーリツ	1993	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
194	東陶機器(株)	1993	ふろがま付石油給湯機	RPW310MSS	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	4年8ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
195	東陶機器(株)	1993	ふろがま付石油給湯機	RPW311AR	④	器具焼損及び器具側の 壁の一部を煤で汚す。 人への被害なし。	2年7ヶ月	送油ゴムホースのクラックにより、漏れた灯油に引火と推定。				1989年9月～2006年12月	経年劣化によるもの。
196	(株)ノーリツ	1993	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	7年				○	1982年11月～2006年12月	
197	東陶機器(株)	1993	石油給湯機	RPH31VS	④	器具焼損及び器具側の窓の焼損。 人への被害なし。	2年7ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
198	(株)ノーリツ	1993	石油ふろがま	OCS-100	④	家屋全焼		半空だきでの事故情報のみ			○	1982年11月～2006年12月	
199	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1993	石油給湯機	MG-302	④	製品焼損	14年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	
200	(株)ノーリツ	1993	石油ふろがま	OCS-100	④	器具、壁一部焼け	7年	AS ₂ S				1982年11月～2006年12月	
201	(株)ノーリツ	1993	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具、浴室焼損		空焚き			○	1982年11月～2006年12月	
202	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1993	油だき温水ボイラ	SR-306	④	家屋全焼し、製品も焼損	16年	原因不明（調査依頼が無く、現品確認出来ず）			○	1986年1月～2006年12月	
203	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1993	油だき温水ボイラ	R-600S	④	器具、ボイラ室焼損	0.5ヶ月	ボイラ交換時に排気筒換えず				1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品 目	型式機種	被害 区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備 考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
204	㈱ I N A X	1993	油だき温水ボイラ	FB-3150C	③	宿泊施設の浴室でCO中毒により女性客1名が倒れ、病院へ運ばれた(軽症)。	約6年	屋外タイプ(排気トップ仕様)の機器を屋内に設置していたため、排気ガスが室内にこもったことが原因と推定している。		○		1988年11月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

No	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
205	(株)INAX	1993	ふろがま付石油給湯機	TBW-3114	④	木造2階建て住宅のボイラ小屋から出火。約260平方メートルを全焼。けが人なし。	約3年7ヶ月	燃焼室底の断熱材(耐火モルタル)が何らかの理由で欠損し、高温の燃焼ガスが機器の下へもれた。本体真下を通して施工されていた送油ゴムホースが熱により溶損し燃料に引火したと推定している。			○	1988年11月～2006年12月	調査は完了したが、原因を特定できず推定にて記載。
206	(株)ノーリツ	1993	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	6年				○	1982年11月～2006年12月	
207	(株)ノーリツ	1993	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具、軒一部焼け	9年				○	1982年11月～2006年12月	
208	(株)ノーリツ	1993	石油給湯機	OX-24	④	器具、床焼け		器具底に断熱材無し			○	1982年11月～2006年12月	
209	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	7年	前前日ASでオイル漏れしそれに引火				1982年11月～2006年12月	
210	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	9年	バス時期割れ		○		1982年11月～2006年12月	
211	(株)ノーリツ	1992	石油給湯機	OB-301Y	④	器具、壁一部焼け	9年				○	1982年11月～2006年12月	
212	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
213	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-240	④	器具内部焼損		空焚き			○	1982年11月～2006年12月	
214	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1992	石油給湯機	MG-302N	④	製品焼損	11年	油漏れを修理点検せず使用し、引火			○	1986年1月～2006年12月	
215	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1992	石油給湯機	KG-32	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	11年	油漏れを修理点検せず使用し、鼠により電源コードの被覆が破られ漏電発火			○	1986年1月～2006年12月	鼠進入で、電源短絡
216	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
217	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001	④	器具内部焼損	7年	排気閉塞しバーナから排気漏れ	○			1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
218	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損				○	1982年11月～2006年12月		
219	(株)ノーリツ	1992	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具、壁一部焼け		煙すすつまり		○	1982年11月～2006年12月		
220	(株)ノーリツ	1992	石油給湯機	OX-3000F	④	器具内部焼損				○	1982年11月～2006年12月		
221	(株)ノーリツ	1992	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	家屋全焼	8.5年	空焚き 原因不明で報告		○	1982年11月～2006年12月		
222	(株)ノーリツ	1991	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具内部焼損				○	1982年11月～2006年12月		
223	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1991	石油給湯機	MC-3R	④	製品焼損	11年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○	1986年1月～2006年12月		
224	(株)ノーリツ	1991	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損		油ホース漏れ		○	1982年11月～2006年12月		
225	カラスクンター(株)	1991	ふろがま付石油給湯機	FY-3	④	戸建住宅で機器用の雪囲いが焼損した火災。	6年	ふろがま付石油給湯機の天板が燃焼中に過熱し、近くの配管用保温材が発火して雪囲いに延焼した。天板が過熱した原因は修理時に内部断熱材を取り外してしまった修理不適切と思われる。			1980年7月～2007年1月	修理業者の後始末ミス	
226	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1991	石油給湯機	MG-302N	④	製品焼損	不明	原因不明(調査依頼が無く、現品確認出来ず)		○	1986年1月～2006年12月		
227	(株)ノーリツ	1991	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損				○	1982年11月～2006年12月		
228	(株)ノーリツ	1991	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具、網戸焼損		オイル接続部のOリングから漏れ		○	1982年11月～2006年12月		
229	(株)ノーリツ	1991	ふろがま付石油給湯機	ORM-2700F	④	器具、浴室半焼				○	1982年11月～2006年12月		

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品 目	型式機種	被害 区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備 考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
230	東陶機器㈱	1991	ふろがま付石油給湯機	RPW310L	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	7年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
231	東陶機器(株)	1991	石油給湯機	RPH320S	④	器具内一部焼損。 人への被害なし。	5年	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
232	(株)ノーリツ	1991	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具、浴室半焼					○	1982年11月～2006年12月	
233	(株)ノーリツ	1991	石油給湯機	OX-3000F	④	器具、ヒートパルス焼損					○	1982年11月～2006年12月	
234	(株)ノーリツ	1991	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損		すす詰り、気化不良でオイルだれに引火	○			1982年11月～2006年12月	
235	(株)ノーリツ	1991	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具内部焼損	11年				○	1982年11月～2006年12月	
236	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1990	石油給湯機	KG-32	①	入浴中、CO中毒にて死亡(1名)	10年	小爆発により、排気漏れ発生。機器に重大な損傷があり、危険の前兆があったが、修理点検せずに使用し、ショートキットにより、CO発生			○	1986年1月～2006年12月	
237	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	6年				○	1982年11月～2006年12月	
238	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具、壁一部焼損	6年				○	1982年11月～2006年12月	
239	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損	7年	オイルホスの劣化でオイル漏れ	○			1982年11月～2006年12月	
240	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1990	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	10年	雨水進入により制御異常で、爆発				1986年1月～2006年12月	点検未実施で、雨水浸入気つかず
241	サンポット(株)	1990	油(薪・石炭)だき 温水ボイラ	HKB-31	④	店舗部損焼	7年間	不明(7年間整備していない)			○	1969年4月～2006年12月	
242	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	6年3ヶ月				○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因			調査期間	備考	
								内 容	製品 起因	誤使用			原因不明 または 調査中
243	㈱ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具とビニール屋根焼損	5年	オイルホースの劣化でオイル漏れ	○			1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
244	(株)INAX	1990	石油給湯機	TB-3117FF	④	給湯機から出火。木造2階建て住宅のボイラ小屋の壁・ひさしの一部を延焼。けが人なし。	約1年9ヶ月	安全装置のリセット操作を連続して100回以上繰り返されたことにより、燃料が燃焼室内に大量に溜まり、着火時に異常燃焼が発生し、燃焼室の底が破損し機器外に炎が出たと推定している。		○		1988年11月～2006年12月	
245	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM	④	家屋全焼					○	1982年11月～2006年12月	
246	三洋電機(株)	1990	油だき温水ボイラ	HBU-M251D	④	半焼火災	約5年	消防の見解では、明確な原因はわからないが、配管接続部のゆるみ等により、油が漏れ、それに引火したのではないかと推測。			○	1986年1月～2006年12月	
247	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具内部焼損	5年				○	1982年11月～2006年12月	
248	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具、洗濯機焼損					○	1982年11月～2006年12月	
249	(株)ノーリツ	1990	石油給湯機	OQ-24	④	器具内部、壁一部焼け	14年	返品なくユーザ責任か			○	1982年11月～2006年12月	
250	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001	④	器具内部焼損	4.10年	ストレーナ部袋ナットゆるみでオイル漏れ引火	○			1982年11月～2006年12月	
251	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1990	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	15年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○		1986年1月～2006年12月	
252	(株)ノーリツ	1990	石油給湯機	OB-300Y	④	器具内部焼損	5.9年	バーナパッキン不良でオイル漏れ引火	○			1982年11月～2006年12月	
253	(株)ノーリツ	1990	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	8年				○	1982年11月～2006年12月	
254	(株)ノーリツ	1989	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	5.7年	オイル漏れに引火	○			1982年11月～2006年12月	
255	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1989	石油給湯機	KG-32	④	製品焼損	10年	缶体水漏れで、油が流出し引火				1986年1月～2006年12月	缶体水漏れ、修理未実施

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
256	日本楽器製造㈱ 「YAMAHA」	1989	石油給湯機	OM-30HR	④	製品焼損	9年	雨水浸入により制御異常し、空焚き				1986年1月～2006年12月	点検未実施で、雨水浸入気づかず

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
257	東陶機器㈱	1989	ふろがま付石油給湯機	RPW311	④	器具焼損及び器具側の壁の一部を煤で汚す。人への被害なし。	4年8ヶ月	原因は特定できず。			○	1989年9月～2006年12月	
258	㈱ノーリツ	1989	ふろがま付石油給湯機	ORM-3100Y	④	器具内部焼損	1年				○	1982年11月～2006年12月	
259	㈱ノーリツ	1989	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
260	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1989	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	13年	油漏れを修理点検せず使用し、引火			○	1986年1月～2006年12月	
261	㈱トヨトミ	1989	石油ふろがま	AF-203A-2	②	水が風呂に入っていないの知らずカイロを入れた。15分後ゴムが焼ける臭いがし、風呂場に行くとき煙で真っ白になっていた。あわてて水をかけ対震自動消火装置を作動させた。胸、右腕大火傷	2年	空だき防止装置が外してあった為状況の判断が困難。空だき防止装置のスイッチ部にゴムが付着しON状態のまま止まって、OFF状態に復帰することなく空だき防止装置が作動しなかったと推測。「詳細不明」			○	1981年4月～2006年12月	
262	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1989	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	11年	油漏れを修理点検せず使用し、引火			○	1986年1月～2006年12月	
263	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1988	石油給湯機	KG-32N	④	製品焼損	6年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	
264	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1988	石油給湯機	MG-302	④	製品焼損	10年	缶体水漏れで、油が流出し引火			○	1986年1月～2006年12月	缶体水漏れ、修理未実施
265	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1988	石油給湯機	OM-30HR	④	製品焼損	9年	本体内部に水侵入、制御異常で発火				1986年1月～2006年12月	点検未実施で、雨水浸入気づかず
266	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1988	石油給湯機	MG-302	④	製品焼損	9年	缶体水漏れで、油が流出し引火			○	1986年1月～2006年12月	缶体水漏れ、修理未実施
267	日本楽器製造㈱「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	SS-36K	④	製品焼損	6年	電源コードが無理に引っ張られていたため、被覆が破れて短絡により引火			○	1986年1月～2006年12月	
268	㈱ノーリツ	1988	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具、壁一部焼損	6年				○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生年月日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
269	日本楽器製造㈱ 「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	RG-278	④	家屋全焼し、製品も焼損	11年	原因不明（調査依頼が無く、現品確認出来ず）			○	1986年1月～2006年12月	

注1：事故発生年月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日月	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
270	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	SR-407	④	ボイラ小屋焼損	7年	煙突がボイラ小屋に接触しており、低温発火		○		1986年1月～2006年12月	
271	(株)ノーリツ	1988	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具、壁一部焼損	6年	水没形跡あり		○		1982年11月～2006年12月	
272	(株)ノーリツ	1988	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001	④	器具内部焼損	4年				○	1982年11月～2006年12月	
273	(株)ノーリツ	1988	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	3年				○	1982年11月～2006年12月	
274	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	RG-277W	④	製品焼損	10年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	
275	(株)ノーリツ	1988	石油ふろがま	OT-2701F	④	器具内部焼損	0年	オイルストレーナのエア抜きビス無				1982年11月～2006年12月	
276	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	8年	油漏れを修理点検せず使用し、引火			○	1986年1月～2006年12月	
277	(株)ノーリツ	1988	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損	3年	バーナパッキン不良と袋ナットゆるみ		○		1982年11月～2006年12月	
278	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1988	油だき温水ボイラ	SR-406W	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	7年	缶体水漏れで、油が流出し引火				1986年1月～2006年12月	缶体水漏れ、修理未実施
279	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1987	油だき温水ボイラ	SR-306	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	9年	油漏れを修理点検せず使用し、引火			○	1986年1月～2006年12月	
280	(株)ノーリツ	1987	石油給湯機	OB-301	④	器具内部焼損	3.5年	燃焼不良		○		1982年11月～2006年12月	
281	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1987	油だき温水ボイラ	MBX-30S	④	器具内部焼損	8年	電装ショート		○		1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ

注1：事故発生日月日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
282	日本楽器製造㈱ 「YAMAHA」	1987	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	9年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○		1986年1月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
283	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1987	油だき温水ボイラ	SR-306	④	製品焼損	8年	油漏れを修理点検せず使用し、鼠により電源コードの被覆が破られ漏電発火		○		1986年1月～2006年12月	鼠進入で、電源短絡
284	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1987	石油給湯機	OM-30HR	④	製品焼損	8年	鼠侵入で制御異常発生し、空焚き				1986年1月～2006年12月	鼠進入で、制御異常
285	(株)ノーリツ	1987	ふろがま付石油給湯機	ORM-300	④	器具、ボイラ室、壁焼損	3年4ヶ月				○	1982年11月～2006年12月	
286	(株)ノーリツ	1987	ふろがま付石油給湯機	ORM-300	④	器具、ボイラ室、壁焼損		使用上、施工上		○		1982年11月～2006年12月	
287	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1987	油だき温水ボイラ	SR-305W	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	8年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○		1986年1月～2006年12月	
288	三菱電機(株)	1987	石油給湯機	CB-1200	④	機器のあたりから出火して、店舗兼住宅が全焼した	1983～1987	損傷が激しく、機器の調査は困難。火災発生時は運転されていない模様であり、原因は不明(警察の見解)			○	1975年4月～2006年12月	
289	(株)ノーリツ	1987	石油給湯機	OB-301Y	④	器具、壁面焼損	3年				○	1982年11月～2006年12月	
290	(株)ノーリツ	1987	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具、壁面焼損	3年10ヶ月	フィン詰り、パナロパッセンからの排ガス漏れ	○			1982年11月～2006年12月	
291	(株)ノーリツ	1987	石油給湯機	OB-301Y	④	器具内部焼損	2年10ヶ月				○	1982年11月～2006年12月	
292	(株)ノーリツ	1987	石油給湯機	OS-3000F	④	家屋全焼	1.2年	器具が原因では無い(器具外より焼損)と報告			○	1982年11月～2006年12月	
293	サンボット(株)	1987	石油ふろがま	FB-GF	④	空焚き機器のみ焼損		空焚き整備不良		○		1969年4月～2006年12月	
294	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損	3年	燃焼不良による排気通路閉塞 炉底の変形によりパナール不良	○			1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
295	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1986	石油給湯機	KG-32	④	製品焼損	4年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	
296	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	2年				○	1982年11月～2006年12月	
297	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	2年	燃焼不良によるフィン閉塞しバーナヘッドから炎あふれ	○			1982年11月～2006年12月	
298	(株)ノーリツ	1986	石油ふろがま	OC-300	④	家屋全焼	2年	電源コンセントを建物に差し込んでいたためユーザーの使用ミスで決着		○		1982年11月～2006年12月	
299	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
300	(株)ノーリツ	1986	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具、壁焼損	4.5年				○	1982年11月～2006年12月	
301	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損	3年	ASミス(ノズル間違い)				1982年11月～2006年12月	
302	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1986	石油給湯機	MG-302	④	家屋全焼し、製品も焼損	不明	原因不明調査依頼が無く、現品確認出来ず			○	1986年1月～2006年12月	
303	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1986	油だき温水ボイラ	RG-278	④	製品焼損	9年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○		1986年1月～2006年12月	
304	(株)ノーリツ	1986	石油給湯機	OX-3000Y	④	器具内部焼損	8ヶ月				○	1982年11月～2006年12月	
305	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
306	(株)ノーリツ	1986	石油給湯機	OX-3000	④	器具、浴室窓焼損					○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
307	(株)ノーリツ 〔(株)アールビー〕	1986	油だき温水ボイラ	MX-310SW	④	器具、ホィー囲焼損	4年	外部パイプ配管の漏れに引火				1982年11月～2006年12月	販売;(株)ノーリツ
308	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1986	油だき温水ボイラ	SR-306	④	製品焼損し、家屋の外壁焼損	6年	油漏れを修理点検せず使用し、引火		○		1986年1月～2006年12月	
309	(株)ノーリツ	1986	石油給湯機	OB-301A	④	器具内部焼損		経年劣化によりペナバックスから炎あふれ	○			1982年11月～2006年12月	
310	日本楽器製造(株) 「YAMAHA」	1986	油だき温水ボイラ	SR-306	④	製品焼損	7年	調査するも、原因不明			○	1986年1月～2006年12月	
311	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
312	(株)ノーリツ	1986	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	家屋全焼		排気筒設備不良との記事のみ			○	1982年11月～2006年12月	
313	(株)ノーリツ	1986	石油ふろがま	OC-300	④	家屋類焼		排気不良			○	1982年11月～2006年12月	
314	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損		油だれに引火	○			1982年11月～2006年12月	
315	(株)ノーリツ	1986	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損		油だれに引火	○			1982年11月～2006年12月	
316	(株)ノーリツ	1985	石油ふろがま	OCS-100	④	家屋全焼		情報のみ			○	1982年11月～2006年12月	
317	サンボット(株)	1985	石油ふろがま	FB-GS	④	機器、壁焼損	4年	屋外設置による設置不良				1969年4月～2006年12月	
318	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-300	④	器具内部焼損	2年				○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分 (注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
319	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	家屋全焼		新聞の記事のみ			○	1982年11月～2006年12月	
320	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損	4ヶ月				○	1982年11月～2006年12月	
321	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-2700F	④	器具内部焼損	0.5年				○	1982年11月～2006年12月	
322	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-240Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
323	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-3001Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
324	(株)ノーリツ	1985	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000	④	器具内部焼損	1年				○	1982年11月～2006年12月	
325	(株)ノーリツ	1985	油だき温水ボイラ	OSS-300	④	器具内部焼損	1年				○	1982年11月～2006年12月	
326	(株)ノーリツ	1984	石油給湯機	OBY-260	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
327	(株)ノーリツ [(株)アールビー]	1984	油だき温水ボイラ	R-800	④	器具とボイラ室焼損					○	1982年11月～2006年12月	販売:(株)ノーリツ
328	(株)ノーリツ	1984	油だき温水ボイラ	OSS-300Y	④	器具内部焼損	3年	AS不備				1982年11月～2006年12月	
329	サンポット(株)	1984	油(薪・石炭)だき 温水ボイラ	HKB-31	④	機器のみ焼損		機器周囲の可燃物に着火			○	1969年4月～2006年12月	
330	(株)ノーリツ	1984	石油給湯機	OB-300	④	器具とボイラ室一部焼損					○	1982年11月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故（治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病）又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故（医師の診断が下されたもの）、④火災（消防が火災として確認したもの）

№	メーカー名	事故発生日	品目	型式機種	被害区分(注)	事故内容	製品の 使用期間	事故原因				調査期間	備考
								内 容	製品 起因	誤使用	原因不明 または 調査中		
331	(株)ノーリツ	1984	ふろがま付石油給湯機	ORM-3000Y	④	器具内部焼損					○	1982年11月～2006年12月	
332	カラスタンダード(株)	1984	石油ふろがま	FT-1	④	木造2階建ての戸建住宅で、一部の外壁、天井などを焼損した火災。	1年	石油ふろがまの燃焼不良修理時、機器内に漏れた灯油の処理誤りにより機器が過熱し循環ペイから発火、住宅の壁に延焼したと推定。				1980年7月～2007年1月	修理業者の後始末ミス
333	サンポット(株)	1983	石油ふろがま	FB-GF	④	浴槽上部はり焼損	1年6ヶ月	空焚き・空焚き防止マイクロスイッチ端子部濡れによる			○	1969年4月～2006年12月	
334	サンポット(株)	1983	石油ふろがま	FBS-4E	④	機器のみ焼損		空焚き・整備不良			○	1969年4月～2006年12月	
335	サンポット(株)	1983	石油給湯機	HBQ-30C	④	機器のみ焼損	4年	設置不良(排気筒1本のみ風圧帯排気)				1969年4月～2006年12月	
336	(株)トヨトミ	1981	石油給湯機	BS-301A	④	当日、午後8時頃BS-301Aより出火、新築2ヶ月の住宅半焼。詳細情報無し。	不明	事故に関する情報が無く詳細は不明である。			○	1981年4月～2006年12月	
337	(株)トヨトミ	1981	石油給湯機	BS-301A	④	新築、木造一部二階建て約280㎡、全焼。詳細情報無し。	不明	煙突の設置不良(めがね石が適正でなかった)、製造メーカーに責任はないと確定「設置不良」			○	1981年4月～2006年12月	
338	サンポット(株)	1981	石油給湯機	HBQ-30C	④	土台及び床下材焼損(地下室設置)	2年	不明			○	1969年4月～2006年12月	
339	サンポット(株)	1981	石油ふろがま	FBS-2C	④	空焚き、機器のみ焼損		空焚き状態・ダイヤフラムピンホール空焚き不動作			○	1969年4月～2006年12月	
340	サンポット(株)	1978	石油ふろがま	FBK-8C-1	④	浴室、2階全焼	3年	空焚き(返却時空焚き防止装置は正常に作動)			○	1969年4月～2006年12月	
341	サンポット(株)	1969	石油ふろがま	FB-300B	④	木造わらぶき平屋 全焼		煙突内に入った松葉の火の粉、またはかまどの火の粉			○	1969年4月～2006年12月	

注1：事故発生日の月日が不明のケースは「-」と表示

注2：被害区分番号…①死亡事故、②重傷病事故(治療に要する期間が30日以上を負傷・疾病)又は後遺障害事故、③一酸化炭素中毒事故(医師の診断が下されたもの)、④火災(消防が火災として確認したもの)